

## はじめに

まずもって、第62号「あゆみ」が刊行されたことを会員の皆様と喜び合うとともに、貴重な実践等を寄稿していただいたり、刊行に携わっていただいたりした多くの先生方に感謝申し上げます。

### <夏季一泊研、中・四国（香川）大会>

一泊研開催の可否、会場・宿泊施設への対応（キャンセルも含めて）、そして何より講演・実技指導講師の岩田先生が前日に空路鳥取入りが可能なのか・・・、大きな波乱を運んできた台風5号でした。ですから、例年のように汗をかきながら実技研修に没頭する会員皆さんの楽しそうな表情を見て、「できてよかった」の思いが私の挨拶のたびに繰り返されたのです。

中・四国大会では、鳥取市が2年間継続実践した陸上領域（リレー）の分科会発表がありました。特に提案発表に関わる単位では、ほぼ毎時間（5、6時間）、数人の鳥取市体育部員が児童のポイントとなる動きを動画撮影したり、逐語記録をとったりして客観的な資料収集を行いました。それらを分析・考察した、各参加者が持ち帰って自校で活用できる内容となっていました。来年度は西伯郡（水泳）と八頭郡（保健）が中・四国大会分科会発表、日野郡が県小体研研究大会担当となります。このような機会を通して、各郡市が一つになること、授業実践が深まっていくことを期待しています。

### <中・四國小体連の動き ～保健教科書・準教科書の大改訂～>

新学習指導要領に沿って、現在、保健教科書と準教科書が大改訂編集作業の真最中です。どちらとも中・四国9県それぞれに学年・単元が割り当てられていて、以下のような作業順となります。

担当単元原稿作成（各県） → 原稿の検討・修正（高松での9県編集会議） → 第2次原稿作成（各県） → 検討・修正（9県編集会議） → 第3次・・・



保健編集会議（高松）

特に保健教科書編集では鳥取県が中心となつて、8月下旬から8名のメンバーが夜に週2回のペースで、9県原稿の綿密検討を行っています。ですから、準教科書同様に「学校現場の声を生かした」教科書となるわけです。

### <研究大会の持ち方の方向性>

中・四国研究大会（鳥取県）開催の在り方について、現在検討を行っているところです。35年度に大会が巡ってきますが、毎回そのたびに開催地を協議するのではなく、原則としてのローテーションを決めておこうとするものです。そうすることにより、全県を巻き込みながら開催地の授業と各郡市分科会提案発表が整合性あるものになり、県が一つにまとまると考えるからです。大会を含め、その前後の研究の深まりが、県内多くの学校に浸透することを期待しているのです。

台風のさなか、空路鳥取に降り立たれた信州大学教授・岩田先生から、「もっと楽しくなる体育」を講演と実技で学びました。体育保健課指導主事・生田先生には、本会のみならず、多くの郡市で授業研究会や分科会発表で指導助言をいただきました。誠に、ありがとうございました。

我々の県小体研、より広い中・四國小体連という組織や事業等を通して、「人」「授業」「実践」と出会い、多くの先生方が自身の力を伸ばされることを願っています。

会 長 長谷川 誠一